

[ スパークル ]  
**Sparkle**  
*Surugadai University News*

2025  
winter

特集

## 第38回 駿輝祭開催！「笑う門には駿輝たる」

秋の風物詩である学園祭「駿輝祭」が、2日間にわたり開催されました

CROSSTALK 駿輝祭で見た学生たちの成長と熱意

卒論特集 Graduation Thesis

活動報告 2024年10月～12月

駿大スポーツ #駅伝部(男子)岡拓斗マネージャー

学内施設最新情報

Circle and Me 邦楽三味線倶楽部×岡本さん



## 第38回駿輝祭開催! 「笑う門には駿輝たる」



ルエル☆リエゾン



高田ゼミ(ページ4・5参照)

天候に恵まれた盛況なイベント

両日ともに天候に恵まれ、例年以上に多くの方々にご来場いただきました。イベントでは、豪華声優や著名人を招いたトークショー、笑いに包まれたお笑いライブ、さらには人気ラジオ番組の公開放送など、多彩な企画を実施。いずれも多くの来場者で賑わい、会場は終始活気にあふれていました。

また、吹奏楽の演奏やバンド演奏、ジャズの生演奏、アカペラの合唱なども各所で行われ、来場者をさまざまな音楽で魅了させました。キャンパス内は至る所で流れる音楽に囲まれ、学園祭らしい雰囲気にも包まれた2日間でした。

秋の風物詩である学園祭「駿輝祭」が、10月26日（土）・27日（日）の2日間にわたり開催されました。今年で38回目を迎えた駿輝祭のテーマは、「笑う門には駿輝たる」。このテーマには、「笑顔ある駿輝祭を楽しく作っていこう」という思いが込められています。



a.c.p



モダンJAZZ研究会



WESH



2  
スポーツ科学部(アクアボールの様子)

学生たちの企画にもご注目いただきました。ゼミやサークルによる展示発表では、日頃の活動の成果を披露する場として多くの来場者を楽しませました。模擬店では、学生が腕を振るった料理が提供され、会場全体が美味しい香りに包まれました。また、キッチンカーも出店し、多彩なグルメが楽しめる空間となりました。

駿輝祭を通じて、来場者の皆さまに笑顔と楽しい時間をお届けできたことを大変嬉しく思います。これからも地域の皆さまや学生と一緒に楽しめるイベントとして、さらに魅力ある学園祭を目指してまいります。

どのような展示発表をされましたか？  
諸井 制作した映像の上映を行いました。「駿大で働く人たち」というタイトルで、5人の方にインタビューをしました。駿大の約4100人の学生を支えている職員の方々が、毎日どんな風に過ごしているのか知りたいと思っただけです。ゼミ生を3〜4名ずつの4グループに分け、班員で



## Sparkle CROSSTALK

# 駿輝祭で見た学生たちの成長と熱意

駿輝祭では、優れた展示や発表を行った団体に対して表彰をしています。

今年度表彰された3つのゼミの代表者に、  
展示内容やゼミについてお話を伺いました。



まつざわ しゅういち  
松澤 秀一

メディア情報学部3年 井上ゼミ  
「～あの頃の記憶を感じて～」代表

もろい かえで  
諸井 楓

メディア情報学部3年 小川ゼミ  
「駿大で働く人たち」代表

おぐり こうた  
小栗 宏太

メディア情報学部3年 高田ゼミ  
「撮影編集体験会」代表

役割分担をしながら撮影から編集まで行い、1時間半弱の映像を制作しました。

**松澤** 「あの頃の記憶を感じて」というタイトルで、デザイン作品の展示を展覧会形式で行いました。ポスターや架空の大学生の制作物という様々な視点を通して、「昭和と平成の2つの時代を比較して見る」という内容です。これまでの歴史を振り返ると同時に、展示を見た人にとっても過去を振り返るきっかけとなる作品を作りたいという思いから着想を得ました。

**小栗** 「撮影編集体験会」を行いました。普段ゼミでは、CM制作やビデオ制作に取り組んでいます。今年は作品を展示するだけでなく、来場者の方に撮影や編集を体験して楽しんでもらうことで記憶により残したい、接客や交流を通して来場者の方から自分たちの作品について、意見や感想を貰いたいという理由で決まりました。

**準備で大変だったことを教えてください。**

**諸井** インタビューの承諾を取ることが難しかったです。事前に撮影した映像を駿輝祭当日に上映すること、インタビューの内容を説明しましたが、断られることが多かったです。それでも諦めず多くの方に承諾を取りに行きました。また、編集の段階では不慣れな動画編集ソフトの練習などでスケジュールが押してしまいました。しかし、先生やソフトに詳しいゼミ生から教わり、一丸となることでなんとか完成しました。

**松澤** 私のゼミでもやはり制作には時間が必要なため、全員のスケジュールがギリギリになり、とても苦労しました。それに加えて、制作では、コミュニケーションを取って確認するよう心がけていましたが、話し合いが足りない部分も多く、理解や解釈の違いが生まれてしまいました。そこで、伝えたいことを伝えるにはどうすればよいか、全員で話し合うことで、納得のいく制作になったと思います。

**小栗** 撮影や編集をしたことがない来場者の方にもどのように説明した

ら分かりやすく伝わるのか、説明の資料やポスターを来場者の方の気持ちを考えて作るのが難しかったです。撮影や編集は大変なイメージがありますが、実際には楽しいことがたくさんあるということを伝えたい、という思いで準備を進めました。



井上ゼミの展示風景

駿輝祭を通して学んだことを教えてください。

**諸井** 編集の大変さは勿論、みんなで協力する大切さを学びました。自分で背負い込んでしまったこともあったので、仲間を頼れるようになりたいと、あらためて思いました。

**松澤** 来場されたご家族が、展示物について楽しそうに話している姿を見たとき、企画を実施して本当によかったと思いました。駿輝祭を通じて、主体性を持つことや、コミュニケーションの大切さ、創意工夫することの大切さを、学ぶことができたと思います。

**小栗** ゼミ内の反省点としては、与えられた役割を全員が責任をもって全うするところが挙げられます。

全員で話し合っていて、展示の制作を進めていくからには、一人ひとりが役割意識を持って、力を尽くすことが大切だと感じました。

これらの課題を解決できるよう、これから頑張っていきたいと思います。



# Graduation Thesis

---

駿河台大学では、大学での学修の総仕上げとして  
学生たちはそれぞれのテーマで研究した成果を論文や作品にまとめます。

今回は、実際に卒業論文の執筆を終えた学生に  
テーマを決めるまでの過程や大変だったこと、後輩へのメッセージを伺いました。



# 「子どもたちの笑顔を増やしたい」という 強い思いから、卒業論文を執筆

## 卒業論文のテーマ

「大学生における地域の子ども  
のスポーツ環境づくりーマルチス  
ポーツに着目してー」というテーマ  
で卒業研究に取り組みました。特  
に、マルチスポーツの効果や、他大  
学の取り組みなどを調査し、自身  
で企画した「ハビネススポーツ」教室  
の実践結果と合わせて考察するこ  
とで、多角的な視点からテーマに  
取り組みました。

## テーマを決めるまでの過程

子どもたちへのサッカー指導や、  
JOYサークル(子どもたちへの運  
動支援・指導)での活動の中で、  
より多くの子どもたちに運動・ス  
ポーツを好きになってもらいたいと  
思ったことが、一つのきっかけでし  
た。近年では、子どもの運動習慣  
の二極化が問題視されています。  
子ども自身がスポーツ活動や習い  
事に興味があったとしても、家庭  
の経済的理由により、その機会が  
得られないケースが多くあります。  
その現状をなんとかしたいと考え、

このテーマに至りました。

## 完成までに苦勞した点や工夫 した点は？

私を中心となって企画運営を  
行った「ハビネススポーツ」教室の実  
施準備には、企画書の作成、指導  
スタッフの募集、安全対策など、  
多くの懸念がありました。特に、  
大学の部活動との連携には大きな  
壁がありましたが、駿河台大学の  
部活動に所属する学生たちの協力  
のおかげで、より専門性が高く、  
充実したスポーツ教室を実施する  
ことができました。また、卒論執  
筆期間中に参加した、教育実習と  
の両立も大変でした。しかし、事  
前の計画と効率的な時間管理によ  
り、両方の活動を円滑に進めるこ  
とができました。

## 今後、卒業論文を書く後輩へ のメッセージ

卒論を提出した今、大きな達成感  
があります。多くの経験や学びを通  
して、幅広い知識が身につきました。

また、文章を書く力が大きく伸びた  
ことも実感しています。そして何よ  
り、卒論提出に向けて、仲間と互い  
に励まし合いながら努力した、この  
1年間は、忘れられない思い出にな  
りました。卒論を執筆する際には、

ぜひ探求心や向上心を持って取り組  
んでください。そして、悩んでいる  
友人がいたら寄り添ってあげてくだ  
さい。その分自分が壁にぶつかつた  
ら、周りの人を頼ってください。お  
互いに支え合うことで、より良い卒  
業論文を書きあげられると思います。

## 所属する飯田ゼミの雰囲気

指導教員の飯田先生は、学生一  
人ひとりの成長を真剣に考えてく  
ださる熱心な先生です。先生から  
多くのアドバイスをサポートを受  
け、卒論を完成させることができ  
ました。卒論提出に向けて、ゼミ  
生全員で切磋琢磨しながら、それ  
ぞれのテーマに向き合えたことが、  
学生生活の財産になったと感じて  
います。飯田ゼミの結束力はナン  
バーワンですね。

## 卒論のテーマ

大学生における地域の子ども  
のスポーツ環境づくり  
ーマルチスポーツに着目してー

しばた こうた  
柴田 康太さん  
スポーツ科学部4年

# 駿河台大学の活動報告 *activity report*



## ホテル・ブライダル業界研究セミナー

2024年10月24日

経済経営学部の式場朝夫特任教授をファシリテーターとして、当業界で活躍する卒業生と内定を獲得した4年生を招いてパネルディスカッションを行いました。学年・学部問わず15名の学生が参加し、セミナー終了後には、卒業生・内定者と学生との懇親会も実施しました。就職活動の早期化が進む中、学生一人ひとりが納得のいく進路選択の一助となるよう、キャリアセンターでは様々な就職行事を開催しています。



## 避難訓練を実施

2024年10月31日

授業中に地震が発生した際における(1)自身の安全確保(シェイクアウト訓練)(2)揺れが収まった後、教職員の誘導のもと最終避難場所である陸上競技場までの避難方法の確認を、約1,800人の学生及び教職員を総動員して行いました。また、教職員を対象にAED・胸骨圧迫の講習及び消火訓練も実施しました。本学では毎年避難訓練と講習会を行い、「万が一」に備えています。



## 秩父市と包括協定を締結

2024年11月13日

駿河台大学(大森一宏学長)と秩父市(北堀篤市長)は、多様な分野で緊密な協力関係を築き、持続・発展的な連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成と発展、並びに未来を担う人材育成などの地域貢献に寄与することを目的とした包括連携協定を締結しました。締結にあたり、本学の卒業生でもあり、秩父市観光大使を務めておられる「アキラ100%」様より自筆のメッセージもいただきました。



## 教育実習報告会

2024年11月14日

今年度の教育実習報告会では、88名の4年生が、研究授業、教材活用、生徒指導など、教育実習で得た経験を発表し、来年度教育実習を控える93名の3年生に共有しました。4年生は、中学校・高等学校における教育現場の実務を経験することで、教員としての役割と責任を深く認識しました。3年生は、先輩からの実践報告を聴取し、教育実習に対する理解を深め、具体的な準備に向けた知識を得ることができました。



公式HP



公式X

その他の活動、最新情報は大学HPやXで更新しています。  
ぜひご覧ください。



## 青梅市と包括協定を締結

2024年11月14日

駿河台大学（大森一宏学長）と青梅市（大勢待利明市長）は、相互の人的・知的資源を活用し、教育、文化、生涯学習、スポーツ、まちづくり等の振興を図ることを目的とした包括連携協定を締結しました。今後は、教育、文化、生涯学習・スポーツの振興、人材育成、地域の活性化・産業の振興、環境の保全、地域貢献のための各種事業に関する事項について包括的な連携を深めていきます。



## ベーシックインストラクター資格取得セミナー

2024年11月14日

ストレッチボールの基礎指導者資格「ベーシックインストラクター」取得のためのセミナーが開催されました。脇坂太陽講師による3時間の講習には、3年生5名、2年生5名、1年生7名が参加しました。講義終了後も多くの参加者が講師に直接質問するなど、熱心な姿勢が印象的でした。資格取得を目指す学生たちの真剣な学びの場となりました。



## 法学部女子会考案のメニューが学食に登場

2024年12月2日～6日

法学部女子会とシダックスコントラクトフードサービス株式会社は、コラボ企画として学食のメニューを考案しました。考案したメニューは期間限定で学食に登場し、大好評でした。法学部女子会とは、法学部の女子学生に学年を問わず仲よくなってもらい、法学部を盛り上げてもらう組織です。新入生歓迎会やOGとの交流の場である就職報告会の実施、オープンキャンパスでの個別相談のサポートなどもしています。



## 学生カフェプロジェクトプレオープン

2024年12月13日

今夏より、「駿大カフェプロジェクト」が始動しました。本プロジェクトは、ゼロから学生の手で学内にオリジナルカフェのオープンを目指すプロジェクトです。カフェは「nanacafe（ナナカフェ）」と名付け、メンバーの様々な思いが込められています。今年度は、複数回のトライアルオープンを実施し、多くの方にご利用いただくことができました。「nanacafe」は来年度の正式オープンを目指しています。



法学部4年 <sup>おかたくと</sup>岡拓斗マネージャー

東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)に、過去2回の出場経験がある本学駅伝部。駅伝部マネージャーの岡さんにマネージャーになったきっかけや、日々、縁の下の力持ちとして選手を支えるマネージャーのやりがいについて、さらには箱根駅伝本戦までの道のりについて伺った。



マネージャーになったきっかけ

3年前の夏、当時、心理学部4年生だった今井隆生さんと学生寮で出会い、マネージャーとして駅伝部への入部を勧められたことがきっかけだった。高校生の時に長距離走をしていたことから、もともと駅伝部の活動には関心があったものの、箱根駅伝出場を目指すチームのマネージャーは自分には力不足ではないかと不安な気持ちもあった。しかし、「体験だけでも」という今井さんの言葉を受け、陸上競技場に通うようになった。その後、箱根駅伝予選会が行われ、見事本戦初出場を決めた先輩方の姿に憧れ、「自分にもできることを探して頑張ってみよう、チームに貢献したい」という気持ちで入部を決断した。

選手のために、チームのために

マネージャーは、日々の練習のサポートや、大会運営、広報業務に至るまであらゆる仕事をこなす必要があるため想像以上に大変だ。しかし、選手一人ひとりの成長を感じた時、チームの目標が達成できた時、マネージャーにしか経験できないやりがいを感じる。外部の企業の方との関わりも多いため、人脈や視野を広げることが出来る。「自分が企業との架け

橋になっている」という自覚を持ち、駅伝部が応援してもらえない環境をつくることも大事な仕事のひとつだ。主務として組織をまとめる立場になってからは、選手の間で考え、最大限にサポートする姿勢を大事にしている。

箱根駅伝本戦までの道のりとこれから

「自分自身で答えを模索し、チームにいい影響を与えてほしい」と先輩への思いを語る。全日本大学駅伝初出場、箱根駅伝連続出場、本戦でのシード権獲得を目標として掲げ、日々チームで練習を重ねてきた。しかし、理想のように上手くないか、チームとしてまとまらない状態が続いた。それでもミーティングを重ね、仲間を信じ予選会に挑んだが、結果は敗退。苦しかった1年が終わり、このメンバーで箱根路に行くことはできない寂しさがこみ上げた。「主力である選手が自覚を持ち、各々の役割とビジョンを理解し、目標を達成するために試行錯誤しながら取り組むことがチームへの貢献である」と先輩へメッセージを残してくれた岡マネージャー。先輩たちが岡マネージャーの熱いバトンを引き継いでくれることを切に願う。

# 学内施設最新情報

学生にとってキャンパス内での学びがより豊かになるように、毎年学内整備の充実を図っています。

## 体育館2階アリーナ

体育館2階アリーナにスポット式空調機(10馬力8台)を新設しました。体育館2階アリーナは、冷房時には周囲の温度を5~6℃下げ、アリーナに心地よい風が吹きます。湿度も下がるので以前のようなムシシ感はかなり軽減されました。



## 体育館1階小体育室

体育館1階小体育室に通常空調設備(10馬力4台)を新設しました。部屋全体にしっかり冷暖房が効くように改善されました。また、暖房時に天井付近に溜まった暖かい空気を循環させるためのサーキュレーターも設置しました。これは冷房時にも効果があります。



## ホッケー場

ホッケー場の夜間照明(40灯)をLED照明(37灯)に変更しました。今まで照明設備の無かった練習コートにも照明を設置しました。LED化したことで、新築当初の明るさに戻り、利便性が向上し、かつ大幅な省エネ化(63%減)を実現することができました。



## テニスコート

テニスコートの夜間照明(33基54灯)をLED照明(8基41灯)に変更しました。かなりの照度アップになり、コート全体が明るくなりました。また大幅な省エネ化(70%減)も実現することができました。ホッケー場と同様照明が直ぐに100%の明るさになるため、利便性も向上しました。



# Circle and Me

学業とサークル活動を両立して成長している  
学生を紹介します。



邦楽三味線倶楽部 × 岡本 真奈 おかもと まな [心理学部・4年]

**邦楽三味線倶楽部に所属したきっかけは何ですか？**

きっかけは、大学進学を機に、新しいことに挑戦したいと考えたことでした。先輩方から説明を聞き、飯能にある津軽三味線演奏団体「貢治会」の元である小山貢治さんから、直接指導を受けられることに魅力を感じました。家元の人柄や先輩方の明るい雰囲気にかかれて入部を決めました。  
**どのような活動をしていますか？**

毎週、「貢治会」の家元にご指導をお願いして稽古場で練習を行っています。家元の実演を見て、聞いて学びながら反復練習をし、教わったことを各自部室で練習をします。新入部員は初めに「ぎっちょんちょん」と「じょんがら節(旧節)」の2曲を教わり、その後は自分の弾きたい曲に挑戦しながら、技術の向上を目指します。

また、駿輝祭や、「貢治会」が主催する演奏会、飯能市内のイベントなどで演奏を行います。演奏会が近くになると「貢治会」の方々との合同練習があります。本番は大人数での演奏のため、周囲の音とタイミングを合わせるのがとても難しいですが、全員で息を合わせて一緒に演奏できることが何より楽しいです。

**サークルでの活動を経て得たものはありますか？**

「できなかったことができるようになる」という経験のおかげで自分に自信ができました。入部当初はゆっくり演奏して曲を覚えることから始まりますが、頭で理解していても手が思うように動かないことがありました。それでも繰り返し自主練習を重ねるうちに次の稽古では滞りなく弾けるようになりました。今では部員と一緒にどれだけ速く弾けるか、テンポを上げて弾く練習をしています。努力した分だけ演奏が上達するため、達成感ややりがいを得るにはうってつけのサークルだと思います。

**今後の目標は何ですか？**

今後は、引き続き飯能市の演奏会に出演して地域の方々との交流を深めていきたいと考えています。また、活動の幅を広げ、より多くの方に三味線の魅力を伝えていきます。若い世代である私たちが少しでも三味線の魅力を伝えることができればと思っています。

社会ではたくさんの方々の初めてを経験すると思うので、卒業後も挑戦する気持ちで大切にしていきたいです。三味線を卒業後も生涯の趣味として続けていきながら、サークルで培った地道に努力する力を発揮して、一人前の社会人として成長できるように頑張ります。